



# 2026年3月期 決算説明会

2026年5月26日

能美防災株式会社 **NOHMI**

期待の先をカタチに



transformation

# 1. 2026年3月期 連結決算概要

## 受注高・受注残高は4期連続で過去最高

防災業界の市場環境は引き続き堅調  
特定の分野に限らず、全セグメントで受注高は増加、全般的に高水準で推移

## 3期連続の増収増益で過去最高を更新

売上高は3期連続、利益は2期連続の過去最高更新  
良好な市場環境を背景に、受注した物件の工事も順調に進捗

## 計画を上回る水準の収益性を達成

コスト上昇への対応として進めてきた計画的な価格改定や業務効率化が奏功  
例年以上に第4四半期に業績が集中し、利益水準は計画を超過  
中長期ビジョンの目標である営業利益率12%以上・ROE10%以上の水準に到達

# 2026年3月期 連結業績

(百万円)

	2025/3		2026/3		前期比		計画比	
	実績	計画	実績		増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	133,696	140,600	<b>139,657</b>		+5,960	+4.5%	△942	△0.7%
売上原価率	65.3%	64.3%	<b>62.5%</b>		△2.8pt	—	△1.8pt	—
売上総利益	46,453	50,200	<b>52,318</b>		+5,864	+12.6%	+2,118	+4.2%
販管費	30,776	33,700	<b>33,968</b>		+3,191	+10.4%	+268	+0.8%
営業利益	15,677	16,500	<b>18,349</b>		+2,672	+17.0%	+1,849	+11.2%
売上高営業利益率	11.7%	11.7%	<b>13.1%</b>		+1.4pt	—	+1.4pt	—
経常利益	16,217	16,900	<b>19,361</b>		+3,143	+19.4%	+2,461	+14.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	11,098	11,600	<b>13,648</b>		+2,549	+23.0%	+2,048	+17.7%
EPS (円)	187.86	196.34	<b>231.88</b>					
ROE	8.8%	8.8%	<b>10.2%</b>					
受注高	139,640	142,500	<b>161,165</b>		+21,524	+15.4%	+18,665	+13.1%
受注残高	69,966	71,866	<b>91,474</b>		+21,508	+30.7%	+19,608	+27.3%

# セグメント別売上高・利益

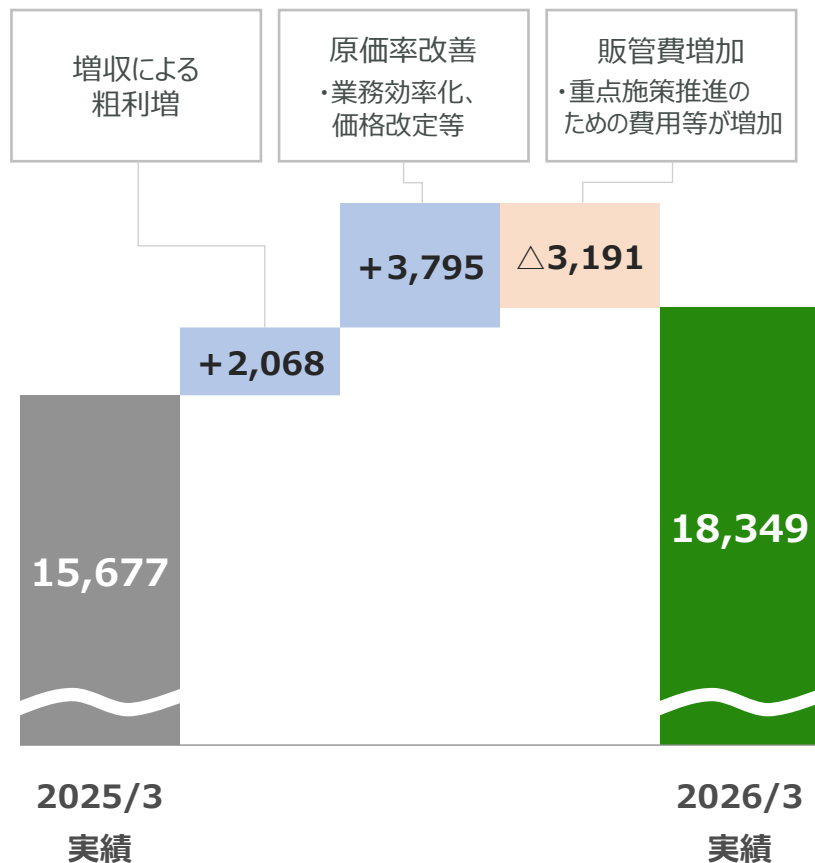
(百万円)

		2025/3	2026/3		前期比	計画比
		実績	計画	実績	増減額	増減額
火災報知設備	売上高	48,147	51,275	<b>51,143</b>	+2,995	△132
	セグメント利益	8,528	9,037	<b>9,958</b>	+1,429	+921
	(利益率)	(17.7%)	(17.6%)	<b>(19.5%)</b>	(+1.8pt)	(+1.9pt)
消火設備	売上高	45,232	49,313	<b>46,949</b>	+1,717	△2,363
	セグメント利益	8,352	8,925	<b>10,842</b>	+2,490	+1,917
	(利益率)	(18.5%)	(18.1%)	<b>(23.1%)</b>	(+4.6pt)	(+5.0pt)
保守点検等	売上高	34,644	35,200	<b>36,734</b>	+2,090	+1,534
	セグメント利益	8,042	8,374	<b>7,979</b>	△62	△394
	(利益率)	(23.2%)	(23.8%)	<b>(21.7%)</b>	(△1.5pt)	(△2.1pt)
その他	売上高	6,169	5,307	<b>5,241</b>	△928	△66
	セグメント利益	386	625	<b>473</b>	+87	△151
	(利益率)	(6.3%)	(11.8%)	<b>(9.0%)</b>	(+2.7pt)	(△2.8pt)
消去または全社	売上高	△497	△497	△411	+85	+85
	セグメント利益	△9,633	△10,462	△10,905	△1,272	△442
連結	売上高	133,696	140,600	<b>139,657</b>	+5,960	△942
	営業利益	15,677	16,500	<b>18,349</b>	+2,672	+1,849

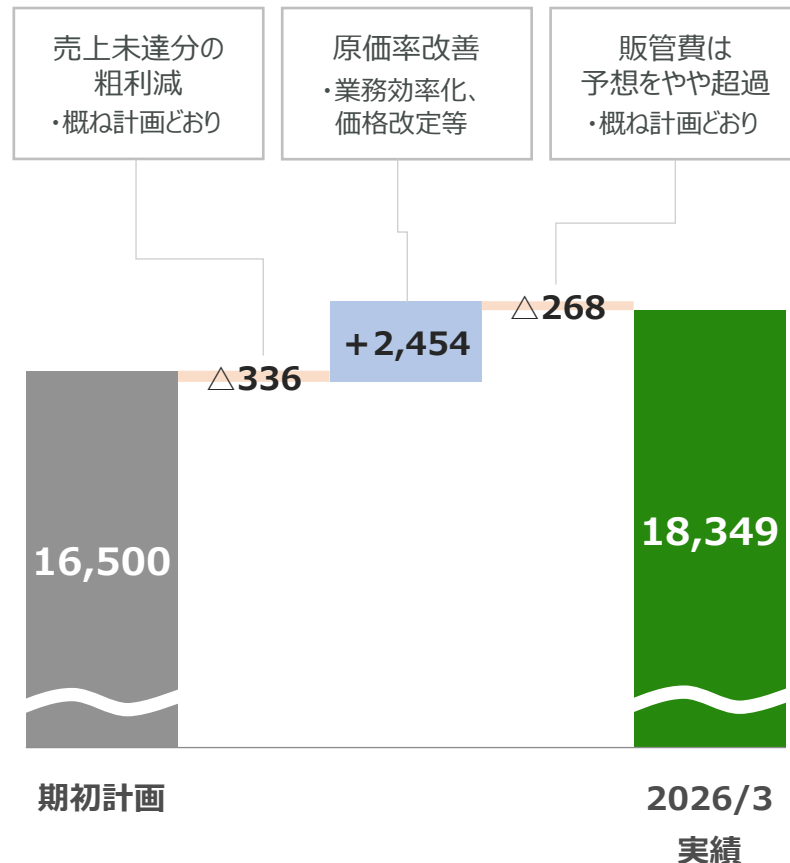


# 営業利益増減分析

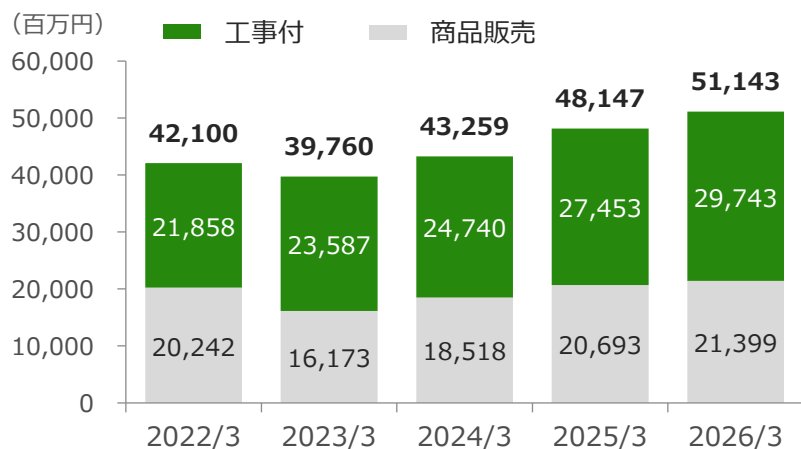
## 対前期比 (百万円)



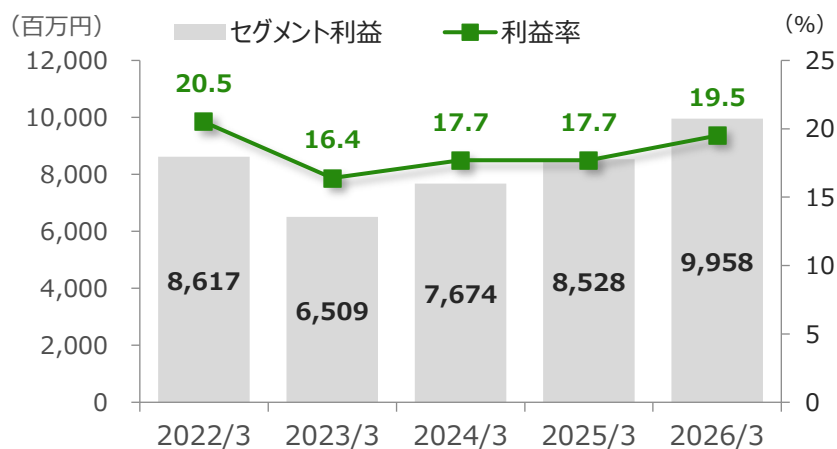
## 対計画比 (百万円)



### 売上高（消去前）



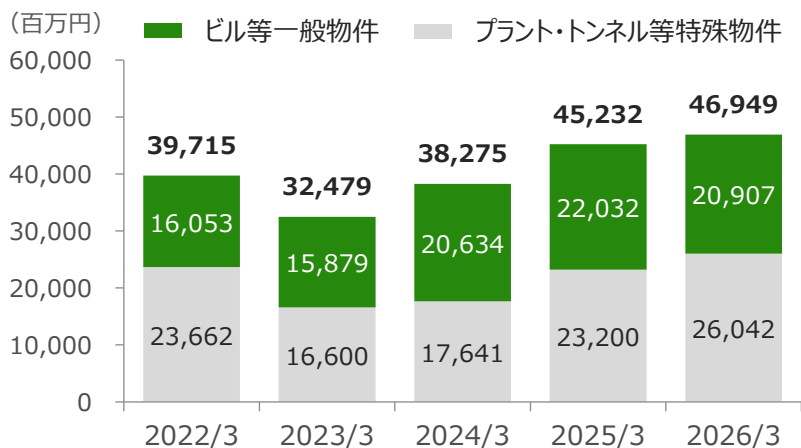
### セグメント利益／利益率



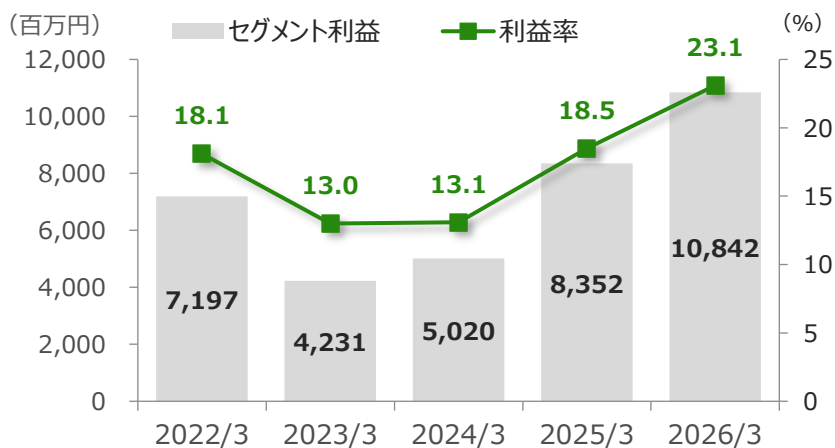
(百万円)	2025/3		2026/3		前期比 (%)	計画比 (%)
	実績	計画	実績	計画		
受注高	50,565	51,500	52,960		+4.7	+2.8
受注残高	17,627	—	19,571		+11.0	—
売上高	48,147	51,275	51,143		+6.2	△0.3
工事付	27,453	30,675	29,743		+8.3	△3.0
商品販売	20,693	20,600	21,399		+3.4	+3.9
セグメント利益	8,528	9,037	9,958		+16.8	+10.2

- 市場環境は全般的に堅調で、売上高は概ね計画どおりに推移。
- 懸念されたコスト上昇に対しては、計画的な価格改定や業務効率化の取組みが奏功し、増益基調を維持。
- 受注高、受注残高、売上高、セグメント利益の全てで過去最高を更新。

## 売上高（消去前）



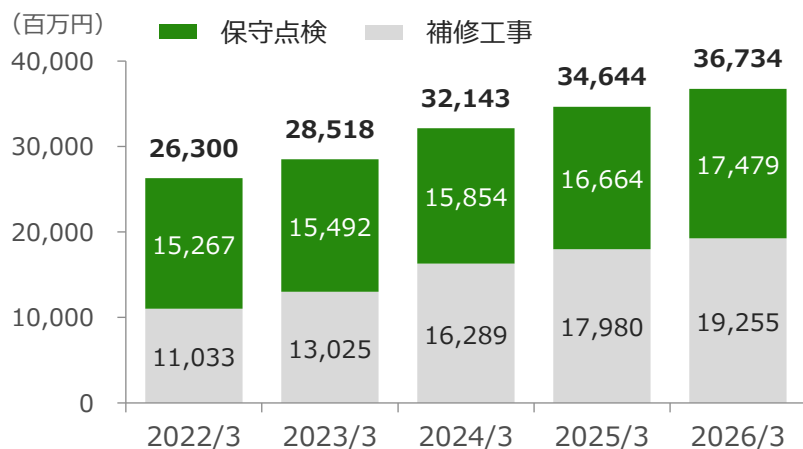
## セグメント利益／利益率



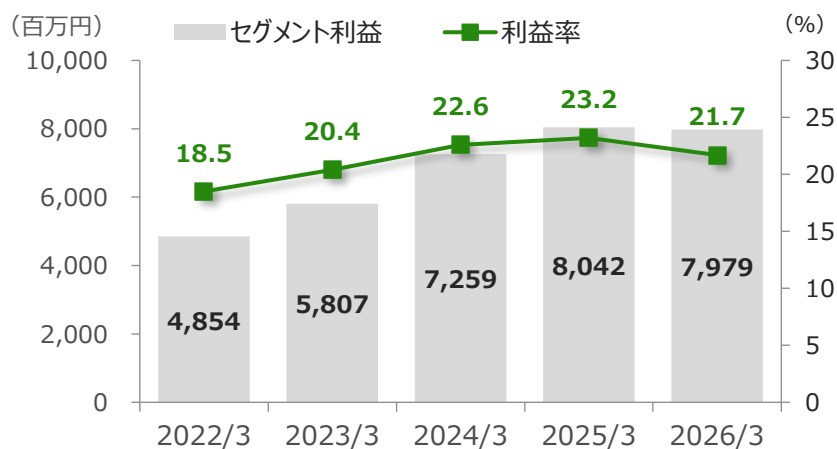
(百万円)	2025/3		2026/3		前期比 (%)	計画比 (%)
	実績	計画	実績	計画		
受注高	47,365	49,900	56,264		+18.8	+12.8
受注残高	43,631	—	53,022		+21.5	—
売上高	45,232	49,313	46,949		+3.8	△4.8
一般物件	22,032	21,713	20,907		△5.1	△3.7
特殊物件	23,200	27,600	26,042		+12.3	△5.6
セグメント利益	8,352	8,925	10,842		+29.8	+21.5

- 需要の高い状況が続く特殊物件を中心に増収増益。
- 比較的採算性の高い物件が多く、手持ち工事も順調に進捗。
- 受注高、受注残高、売上高、セグメント利益の全てにおいて、2期連続で過去最高を更新。

## 売上高 (消去前)



## セグメント利益 / 利益率



(百万円)	2025/3		2026/3		前期比 (%)	計画比 (%)
	実績	計画	実績	実績		
受注高	35,701	35,600	37,678		+5.5	+5.8
受注残高	7,338	—	8,282		+12.9	—
売上高	34,644	35,200	36,734		+6.0	+4.4
保守点検	16,664	17,400	17,479		+4.9	+0.5
補修工事	17,980	17,800	19,255		+7.1	+8.2
セグメント利益	8,042	8,374	7,979		△0.8	△4.7

- 受注高、受注残高および売上高は、引き続き順調に拡大し、いずれも過去最高を更新。
- 前期と比べると、採算性の低い物件がやや多く、販管費の増加もあり、利益率は低下。
- 受注拡大を背景に、人員増強を継続的かつ計画的に進めるとともに、需要のさらなる掘り起こしを図る。

期待の先をカタチに



transformation

## 2. 能美防災グループ 中長期ビジョン2028 ステージⅢ (2026年3月期～2029年3月期)

# 中長期ビジョン2028

2020年3月期  
～2022年3月期

ステージⅠ

2023年3月期  
～2025年3月期

ステージⅡ

前中期経営計画

2026年3月期  
～2029年3月期

ステージⅢ

新中期経営計画

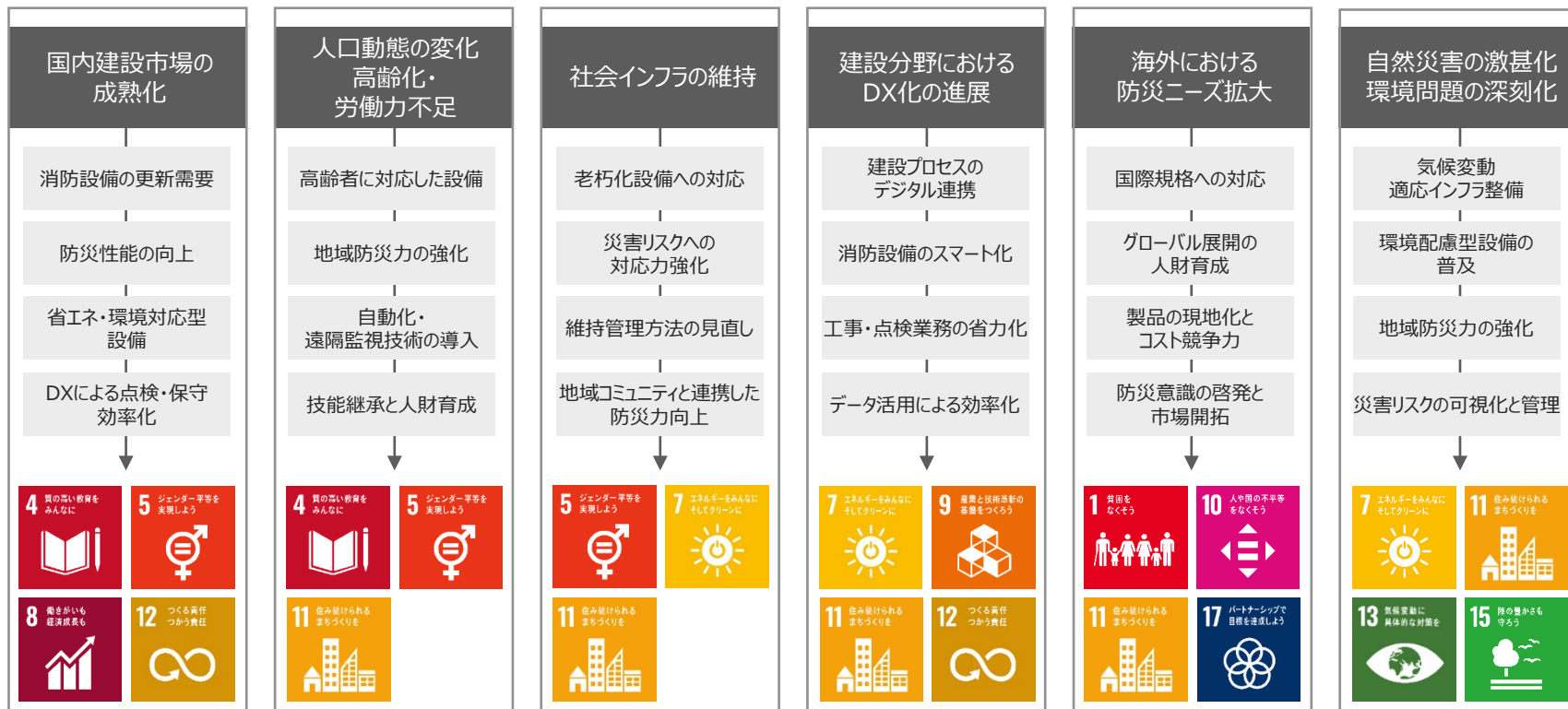
...

2028年度のありたい姿  
の実現に向けた総仕上げ

# 能美防災が対処すべき社会課題の領域

社会動向、変化・課題

主要SDGs



ありたい  
社会像

自社の  
ありたい姿

## 大切な命や財産・環境を守り、誰もが笑顔で暮らせる社会を実現する

既存事業領域を中心に  
独自防災システムを提供

お客様の課題を起点に  
最適防災ソリューションを提供

防災監視のあらゆるシーンで  
お客様の課題解決を支援

高齢化・人手不足に対応した  
施工・メンテナンス体制確立

総合防災メーカーとして  
災害全般へ事業領域拡大



# 中長期ビジョンステートメント<2022年5月公表>

<中長期ビジョンステートメント>

期待の先をカタチに



transformation

「期待の先」にある安全を「カタチ」にし、誰もが笑顔で暮らせる社会を実現する

## 自社のありたい姿

➔ 1

既存事業領域を  
中心に独自防災  
システムを提供

➔ 2

お客様の課題を  
起点に最適防災  
ソリューションを提供

➔ 3

防災監視のあらゆる  
シーンでお客様の  
課題解決を支援

➔ 4

高齢化・人手不足に  
対応した施工・  
メンテナンス体制確立

➔ 5

総合防災メーカー  
として災害全般へ  
事業領域拡大

# 中長期ビジョンステートメント実現に向けて

「期待の先」にある安全を「カタチ」にするために

人財・組織の知向上

## 飛躍的成長への人事戦略



個人と会社の成長サイクルを加速させ、  
飛躍的成長を実現する

お客様との共創

## 未来共創プロジェクト



お客様への提案のカタチを変革し  
提供価値を向上させる

成長への投資

## 未来投資計画



未来に向けた研究開発・M&A・設備・  
人財・環境投資を計画

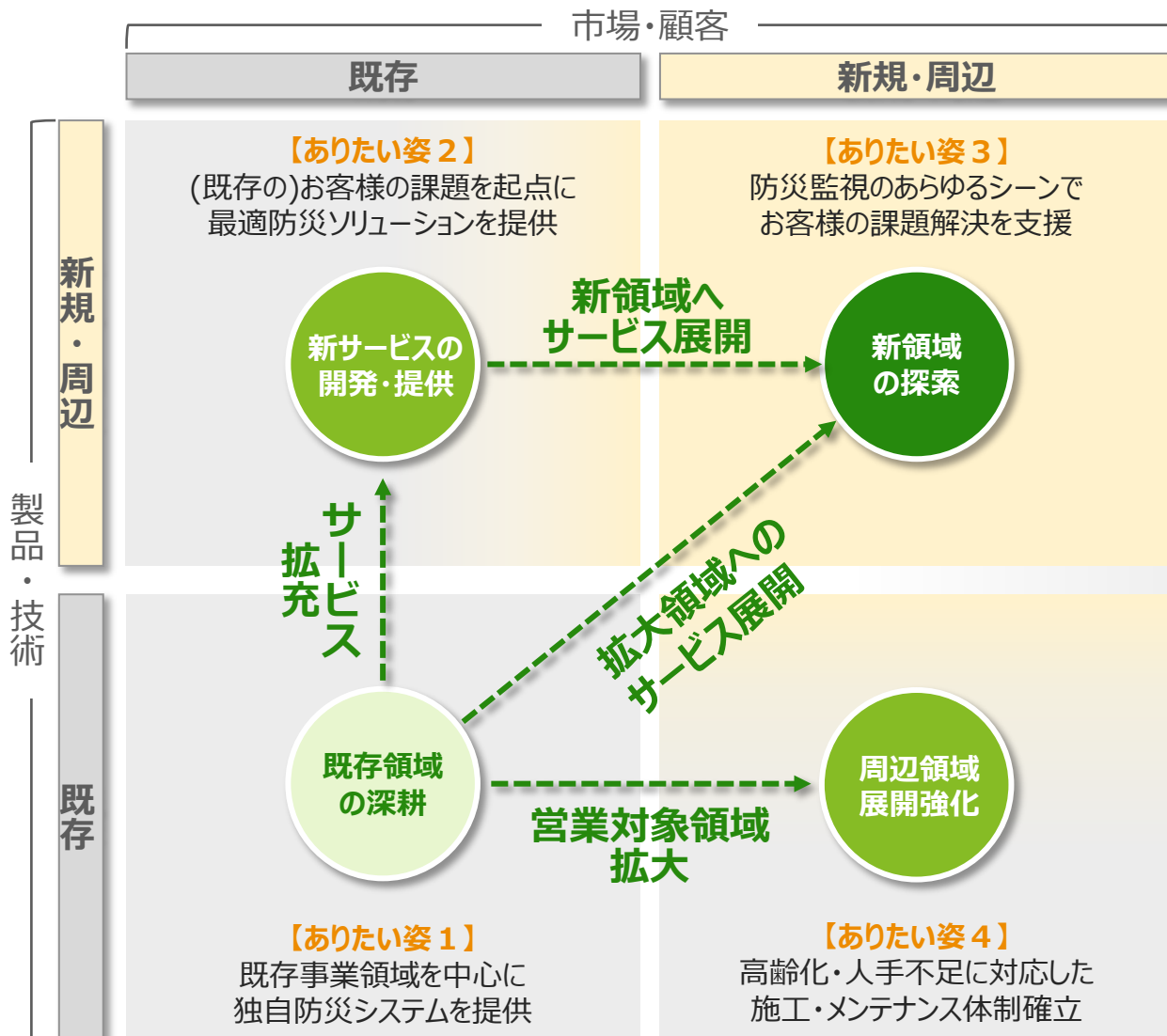
デジタルトランスフォーメーション（DX）

安定した製品・サービス供給体制をより強固にするサプライチェーンの実現

サステナビリティ経営推進による企業価値向上を前提とした課題対応

より高い付加価値を創造できる企業への変革

# 事業戦略の基本的な方向性とありたい姿の関係性



**ありたい姿5**  
 総合防災メーカー  
 として災害全般へ  
 事業領域拡大

ステージⅢの1年目は3項目で目標値を達成。ただし、一時的な要因の寄与もあったことから、引き続き目標水準の達成に向けて取り組んでいく

### ステージⅢ

	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	2029年3月期 目標
売上高	1,336億円	1,396億円	1,700億円以上
営業利益率	11.7%	13.1%	12.0%以上
ROE	8.8%	10.2%	10.0%以上
配当性向	40.5%	50.0%	50.0%

### 重点施策 1

- 人財採用・育成・配置の強化徹底の継続
- DX実現に向けた取組みの加速

既存事業の  
収益拡大と利益率の向上

### 重点施策 2

- 防災周辺領域や隣接業界へのM&Aの積極的な展開

事業の拡大

### 重点施策 3

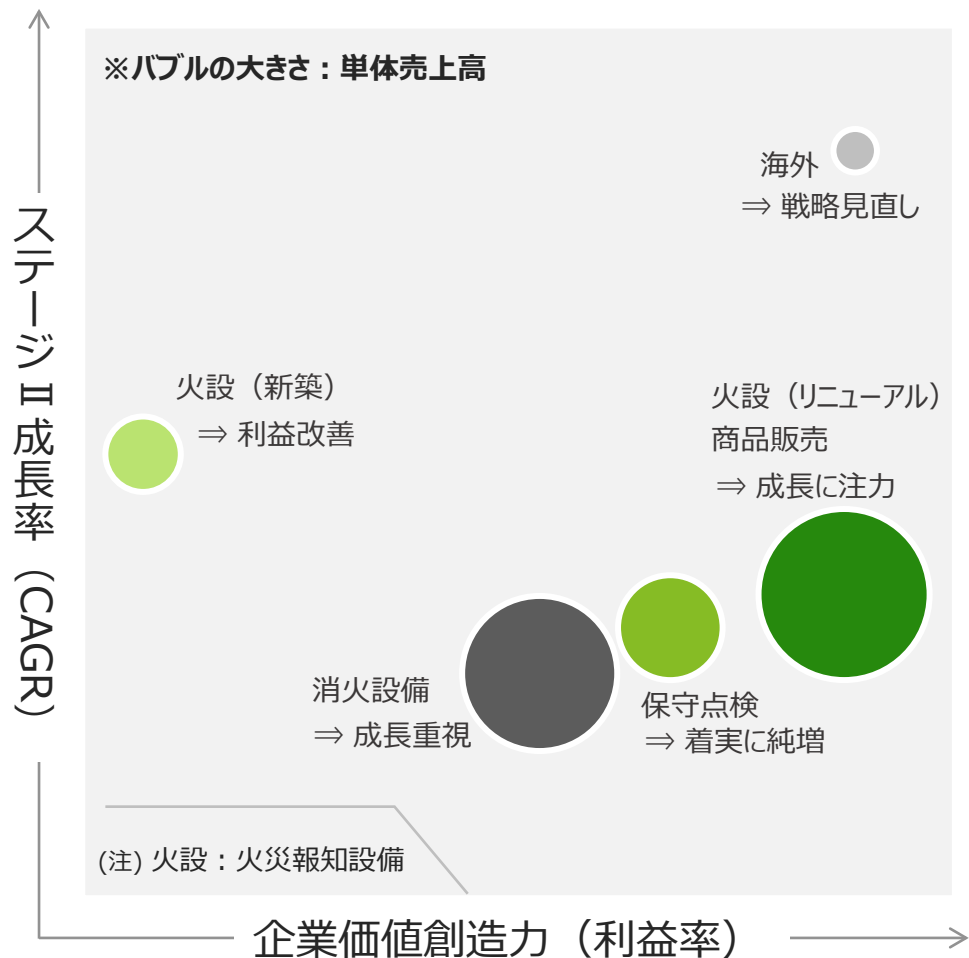
- 未来共創プロジェクト活動等への注力

新規事業創出ならびに  
スケール化

# 【重点施策 1】 事業ポートフォリオの現状と人財配置の見直し等による今後の方向性

既存事業においては**リソースを積極増強**して利益率の高い事業へ積極投入

➡ 全体的に人的リソースを増強、従業員数はM&A効果もあり、前年比**376名増**



## 火設（リニューアル）、商品販売

✓ リソースの積極投入による成長

## 保守点検

✓ 新規案件の着実な積み上げによる純増

## 消火設備（ビル、プラント、トンネル等）

✓ リソースの積極投入と機器売り拡大による成長

## 火設（新築）

✓ 価格改定と受注可否判断による採算性の改善

## 海外




✓ 成長へ向けた戦略の見直し

# 【重点施策 1】飛躍的成長に向けた人的資本経営

「期待の先」にある安全を「カタチ」にするために

## 飛躍的成長への人事戦略

「自律と挑戦」「社員総活躍」「活躍・成長基盤の整備」

働き方	戦略の方向性	評価指標	実績	異動配置	戦略の方向性	評価指標	実績
 <b>働き方</b>	ワークライフバランスのさらなる促進	<input type="checkbox"/> 有給休暇取得率 : 75%以上	[FY24 →25] 70.7% →74.1%	 <b>異動配置</b>	個人のキャリア志向を大切に、戦略的な異動配置の実現 ▲ 人財ポートフォリオの設定	<input type="checkbox"/> 成長機会スコア : 3.8以上 *3	[FY24 →25] 3.5 →3.5
		<input type="checkbox"/> 男性育休取得率 : 60%以上	29.6% →53.7%				
 <b>採用</b>	事業戦略の実現に向けて必要な人財の獲得に注力 (施工、メンテナンス人財等)	<input type="checkbox"/> 能美防災 : 400名増 *1	[FY24 →25] 97名増 →116名増	 <b>育成</b>	早期戦力化に向けた人財育成体制の構築	<input type="checkbox"/> スキル(専門)教育カリキュラム数 : 50%増 *4 (2024年度比)	[FY24比] 12%増
		<input type="checkbox"/> グループ会社 : 100名増 *1	56名増 →357名増				<input type="checkbox"/> 一人当たり売上高 : 5%増 *2
 <b>人事制度</b>	働きがいがあり、働きやすい職場環境を構築	<input type="checkbox"/> 2026年度までに施策実行	[FY24 →25] 3.7 →3.8	 <b>DE&amp;I</b>	多様な能力・価値観を持つ人財が活躍・成長する機会を創出	<input type="checkbox"/> 女性社員上級職 : 30名以上	[FY24 →25] 15名 →15名
		<input type="checkbox"/> 働き方スコア : 4.0以上 *3	3.2 →3.3				<input type="checkbox"/> 障がい者雇用率 : 法定雇用率以上
		<input type="checkbox"/> 評価スコア : 3.5以上*3					

\*1 : 2025~2028年度累計 (臨時・嘱託含む) \*2 : 2019~2023年度平均比

\*3 : 従業員エンゲージメントスコアの構成要素 (働き方、評価の納得感、成長機会に関する従業員サーベイ結果を基に測定)

\*4 : カリキュラムごとの実施日数に基づき算定

# 【重点施策 1】 デジタルトランスフォーメーション（DX） 実現に向けて

## 顧客価値向上とノンコア業務削減に向けリソースを大幅増強して注力

### ➡ 2026年3月期は、体制構築、基盤整備等に対応

**体制構築** DX推進グループを発足、各部署から約100名をDX推進者として選任 等

**基盤整備** ペーパーレス化推進（既存の紙文書を電子化）等

※2027年3月期は、①生成AI活用拡大②デジタルリテラシー向上  
③業務のデジタル化拡大を推進、業務変革を通じて競争力の強化につなげる

### サービスのカタチ変革

- クラウドサービス（TASKis、N-HOPS等）の専従体制構築による新規導入および新規開発の促進

能美・防災支援システム

**TASKis**  
Task Information System

**n-hops**<sup>TM</sup>

### お客様対応変革

- 点検プロセス変革の全国展開に伴う標準化
- 施工プロセス改善の成果拡大
- 営業から受発注業務までのフロー変革

### 社内デジタル化 ノンコア業務削減

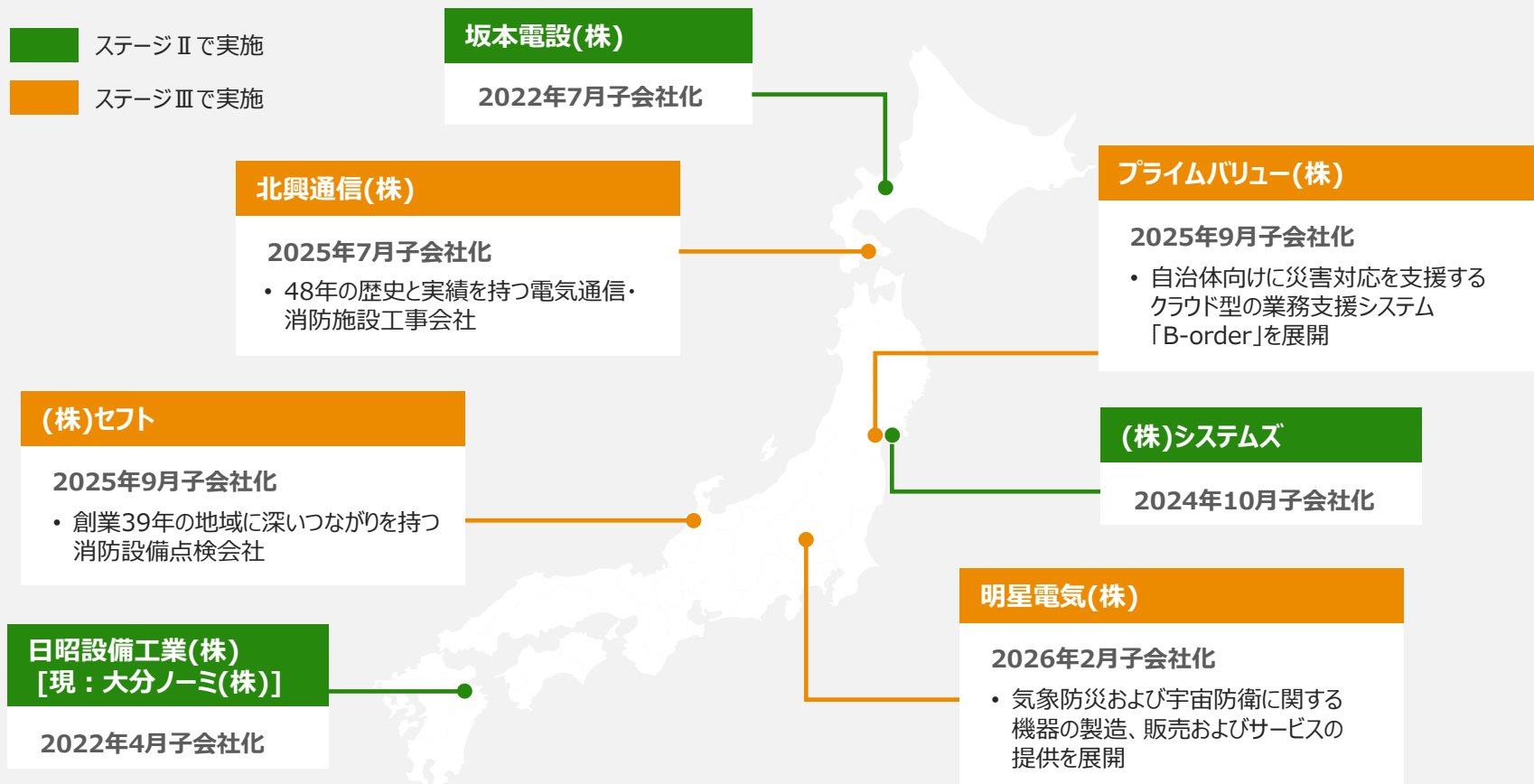
- 全社におけるペーパーレス化を目指す
- デジタル変革の統合戦略を策定
- RPAの導入効果を最大化
- 生成AIによる業務改善を積極展開

顧客価値  
の向上へ

## 【重点施策2】中長期ビジョン2028における積極的なM&A

PMIリソース不足対応 ➡ 専任組織を設置、PMIを含めM&A推進の基盤を強化  
(2名でスタート、2026年4月からグループ全体で5名体制に)

※ 今後PMI体制の更なる拡充も検討し、戦略に沿った能動的なM&Aの推進を継続



# 【重点施策3】ステージⅡにおける新サービス

## 新規事業に関する当社の考え方：段階的に検証・成長させサービスのスケール化を実現

### フェーズ1

### フェーズ2

### フェーズ3

#### 事業モデルの確立

#### 事業拡大・展開

- サービス化、売り方、提供体制を整理
- 全国展開、組織としての運用を目指す  
各フェーズに応じた役割と仕組みを設定



**n-hops**  
N-HOPS (エヌ-ホップス)

災害時に自治体支援が行き届かない状況でも、  
住民主体の避難所の開設・運営を実現

自治体との実証実験を重ね、一定の検証を経  
たうえで2026年度に本格リリース



能美・防災支援システム  
**TASKis**  
Task Information System

火災から設備故障までトラブル対応を一元管理、  
非常時の初動対応を迅速化するクラウドサービス

専任の担当営業増員、導入実績が着実に拡大  
→既存事業の火災報知設備の受注につながる  
事例も増加（例：部分受注から施設全体受注への広がり）

# 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

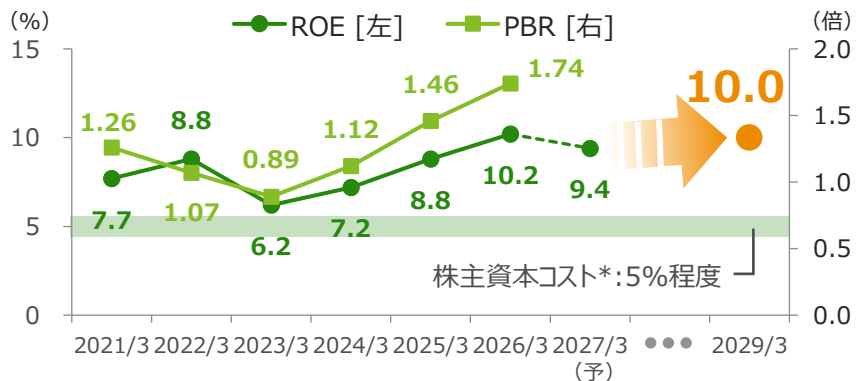
中長期的な企業価値のさらなる向上のため、  
資本コストや株価を意識した経営を一層推進  
(株主資本コストは少なくとも5%程度\*と認識)

\*CAPM、株式益利回りより推計

2028年度までに  
**ROE 10.0%以上**  
とすることを目指す

- 収益性の向上
- 株主還元の強化

資本効率  
の向上



## 中長期ビジョン2028の遂行

### 具体的な取組み

#### 1) 収益性の向上

**重点施策** 成長に向けた投資

- ・基盤整備 ⇒ 原価低減の実現
- ・人的資本投資 ⇒ 競争力の向上
- ・M&Aの活用 ⇒ 事業領域の拡大

#### 2) 株主還元の強化

配当性向目標を50%に設定

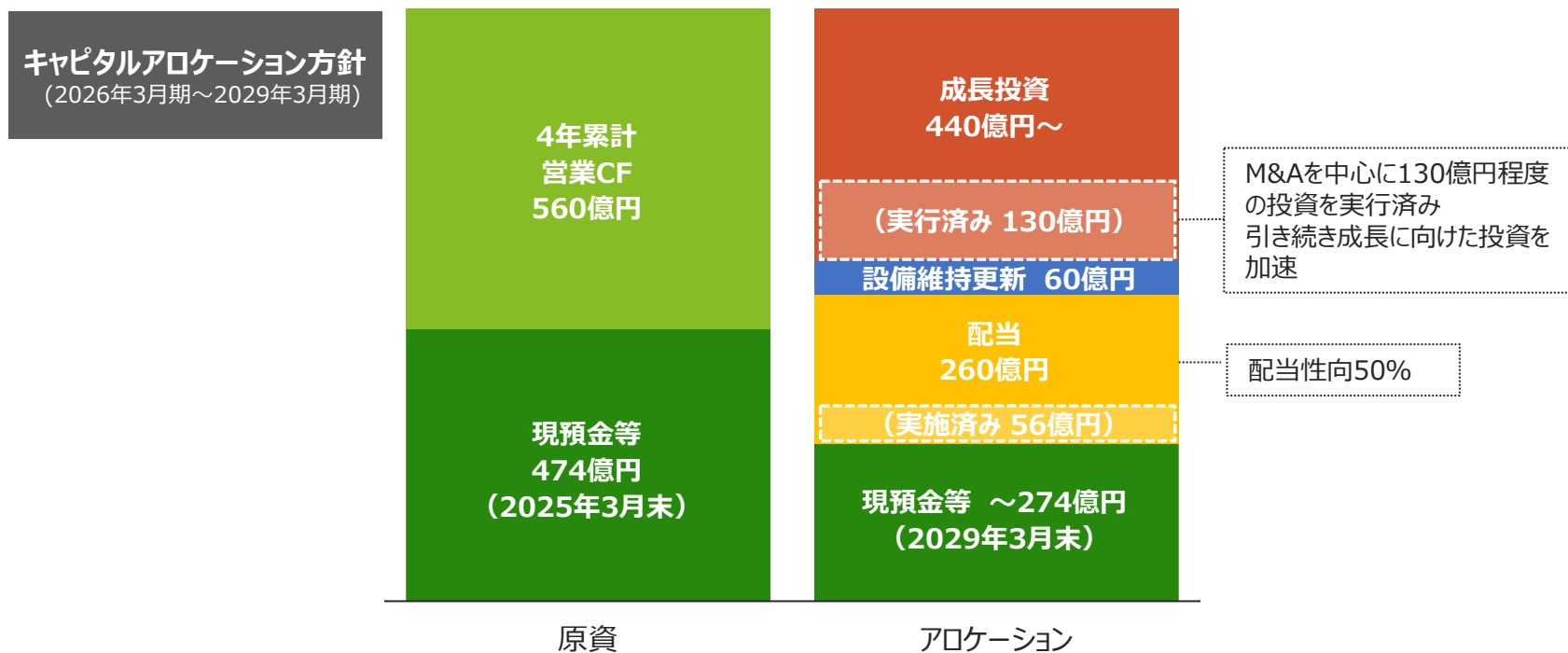
#### 3) IR活動の充実

継続的な株主・投資家との対話  
開示情報の質、量改善等

株主資本コスト  
引き下げ  
⇒PBR上昇

# ステージⅢにおけるキャピタルアロケーション方針

- 人的資本やM&Aへの積極的な成長投資を通じて、持続的な成長を実現
- 追加の成長投資には、必要に応じて借入金も活用
- 配当性向50%を目標として設定（投資等の状況に鑑み、引き上げについて適宜検討）

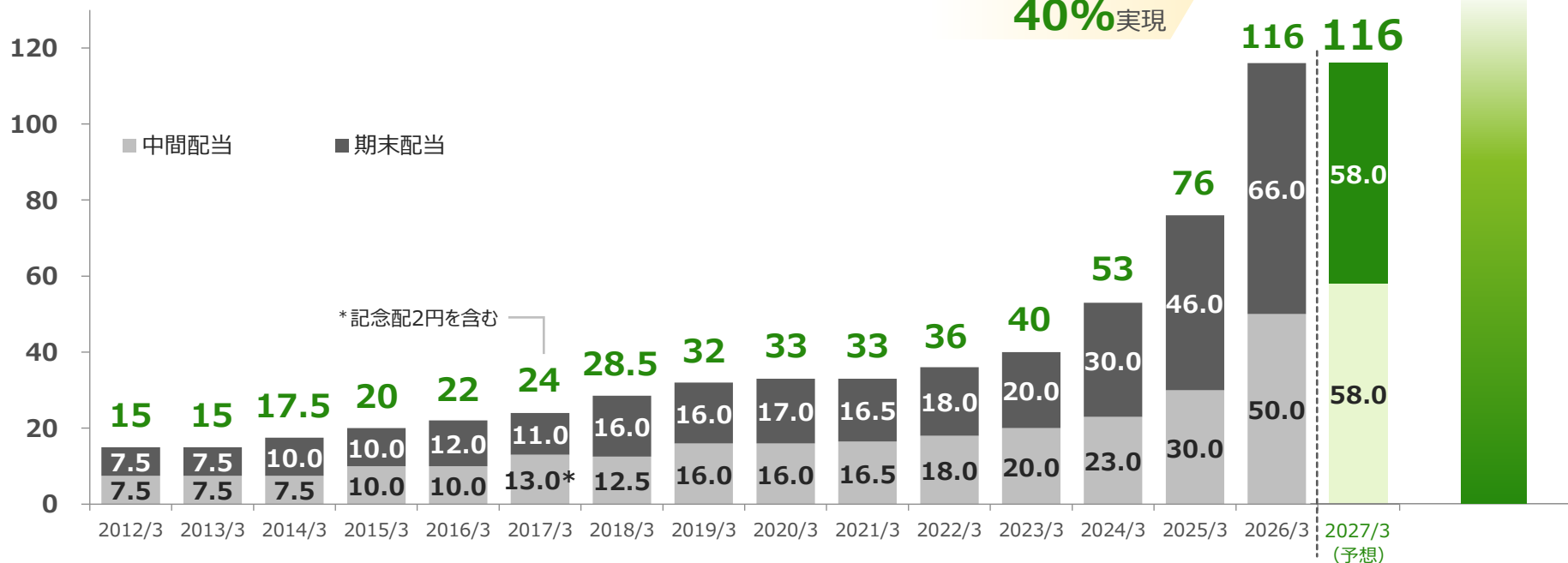


## ステージⅢ期間から、連結配当性向の目標水準を50%に設定

➡ 2026/3期の実績は50.0%で目標達成

### 1株あたり配当金の推移 (単位：円)

\* 1979/3期以降、特別配当を除き減配をしていません。



ステージⅡ期間  
(2023/3~2025/3)

2025/3期までに  
連結配当性向  
40%実現

2026/3期以降  
50%へ

配当性向	50.6%	31.4%	21.9%	21.4%	20.0%	20.8%	18.8%	24.7%	18.9%	26.1%	23.2%	34.4%	37.3%	40.5%	50.0%	51.3%
------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------



# マテリアリティと中長期ビジョンの関係

## マテリアリティ

### 1 あらゆる災害から生命・財産を守るためのソリューションの提供

「火災被害ゼロの社会」の実現に向けた防災システム、サービス提供体制の強化とともに、災害全般への事業領域拡大、デジタル技術の活用等に取り組んでいます。

### 2 自律と挑戦を重んじた人材育成と多様性の確保

社員が成長実感を得られる企業風土の醸成、ダイバーシティ&インクルージョンの推進、働きがいを感じる職場の実現等に取り組んでいます。

### 3 カーボンニュートラル実現をはじめとする地球環境保全への取り組み

カーボンニュートラル実現に向けて取り組むとともに、製品・サービスによる環境への貢献、化学物質規制への積極的な対応等に取り組んでいます。

### 4 安全・安心を担う企業にふさわしい経営の実践

強固なサプライチェーンの実現、人権に配慮した企業経営の実践、災害に対するレジリエンス（BCP）の強化等に取り組んでいます。

## 中長期ビジョンステージⅢにおける活動の方向性

災害全般領域への社会課題解決に向けた未来共創プロジェクトの活動継続に加え、火災被害ゼロの社会実現に向けマーケティング機能を強化して推進していく。

誰もが働きがいを持ち、働きやすい職場環境を構築し、事業戦略の実現に向けた必要な人材の獲得と一人当たりの生産性向上を推進。具体的には、多様な能力・価値観を持つ人材の活躍・成長する機会を創出し、女性社員上級職 30名以上、障がい者法定雇用率以上を目標に取り組んでいく。

中期削減目標である2030年度までに温室効果ガス排出量を2018年度比で45%削減することを目標として、さらに項目を分解したKPIを設定して推進。具体的には、電気、ガス、燃料（ガソリン・重油・軽油・灯油）、紙等の使用量を削減、また、森林を増やす植林活動を行う団体への協賛等や、気候変動が事業に与えるリスクの低減および機会の創出に向けた対策を引き続き推進していく。

- ① コンプライアンスの徹底
- ② 部品調達を強化し、生産体制の安定と納期遵守を徹底。DXで業務効率化を進め、人材確保・育成を推進。サプライヤーと連携し、技術力と生産効率を高め、サプライチェーンを強化する。
- ③ 人権デュー・デiligジェンスの検討を進める。
- ④ 全国事業所における南海トラフを想定した更なるレジリエンス強化策を検討していく。

## 貢献するSDGs



- 資格不正取得に関する再発防止策の策定および進捗状況のご報告（2026年3月26日公表）
- 「能美防災人権方針」の策定および人権デュー・デiligジェンスの実施について（2026年3月31日公表）

期待の先をカタチに



*transformation*

### 3. 2027年3月期 連結業績予想

# 2027年3月期 連結業績予想

(百万円)

	2026/3	2027/3	前期比	
	実績	予想	増減額	増減率
売上高	139,657	<b>157,600</b>	+17,942	+12.8%
売上総利益	52,318	<b>57,200</b>	+4,881	+9.3%
(利益率)	(37.5%)	<b>(36.3%)</b>	(△1.2pt)	—
販管費	33,968	<b>38,200</b>	+4,231	+12.5%
営業利益	18,349	<b>19,000</b>	+650	+3.5%
(利益率)	(13.1%)	<b>(12.1%)</b>	(△1.0pt)	—
経常利益	19,361	<b>19,840</b>	+478	+2.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	13,648	<b>13,310</b>	△338	△2.5%
EPS (円)	231.88	<b>226.13</b>		
ROE	10.2%	<b>9.4%</b>		
受注高	161,165	<b>155,600</b>	△5,565	△3.5%
受注残高	91,474	<b>89,474</b>	△2,000	△2.2%

## 引き続き堅調な市場環境を想定

防災業界の市場環境は引き続き堅調に推移すると想定  
一方で、中東情勢によるサプライチェーンや日本経済への影響には注視が必要  
施工能力等の制約も考慮し、受注高は前期から減少も高水準を見込む

## 過去最高の売上高・営業利益を計画

期初時点の受注残高は過去最高水準  
高水準の受注残高を背景に、売上高は初の1,500億円超えを見込む  
市場環境に不透明感が増すなか、営業利益も過去最高の更新を計画

## 重点施策を推進し、収益基盤を強化

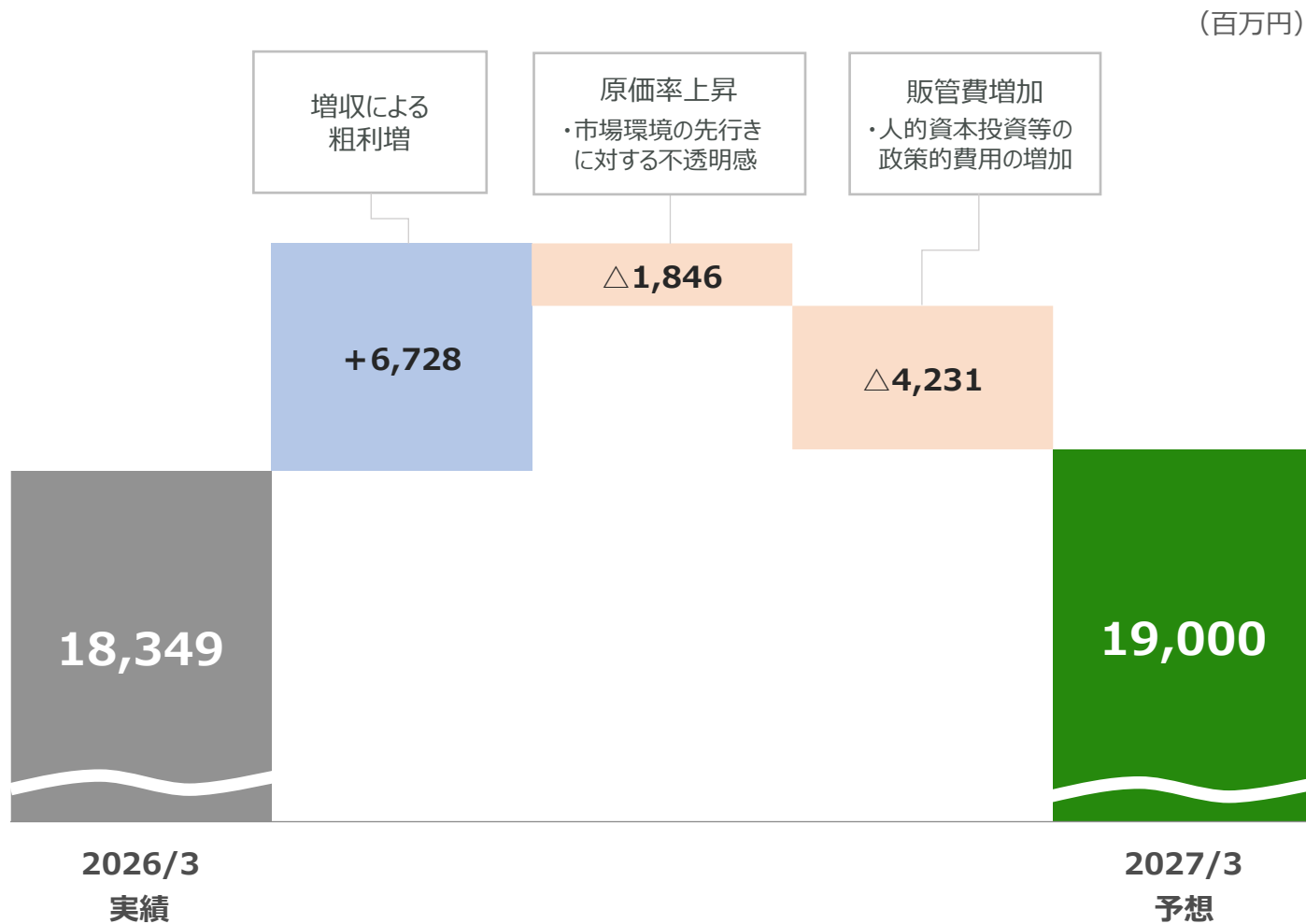
原材料価格・労務費等のコスト上昇が続く事業環境を踏まえ、  
さらなる業務効率化の推進および2026年4月に再度の価格改定を実施  
成果の上がっているM&Aをはじめ重点施策を推進し、中長期的な収益基盤を強化

# セグメント別売上高・利益予想

(百万円)

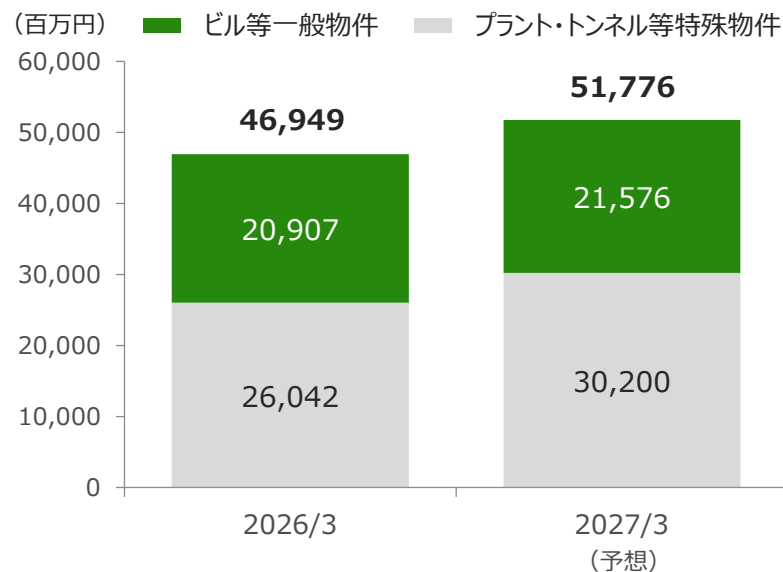
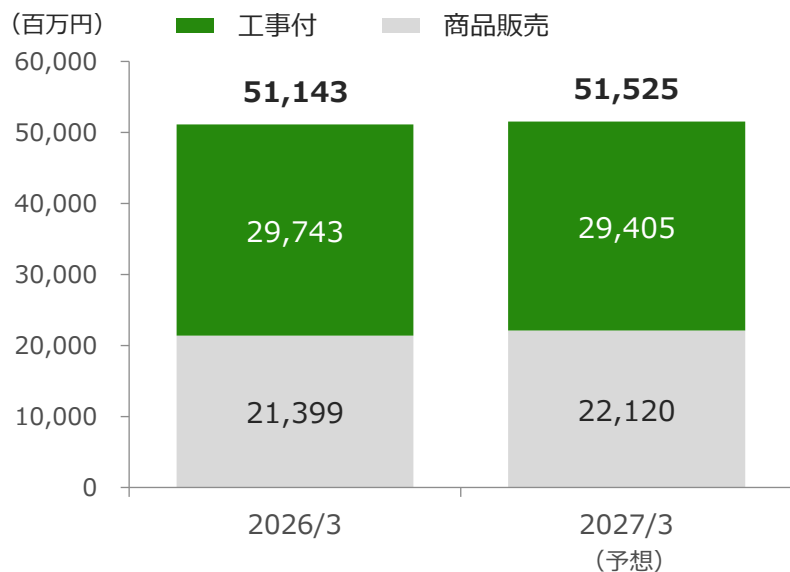
		2026/3	2027/3	前期比	
		実績	予想	増減額	増減率
火災報知設備	売上高	51,143	<b>51,525</b>	+ 382	+ 0.7%
	セグメント利益	9,958	<b>9,270</b>	△ 688	△ 6.9%
	(利益率)	(19.5%)	<b>(18.0%)</b>	(△ 1.5pt)	—
消火設備	売上高	46,949	<b>51,776</b>	+ 4,826	+ 10.3%
	セグメント利益	10,842	<b>10,763</b>	△ 78	△ 0.7%
	(利益率)	(23.1%)	<b>(20.8%)</b>	(△ 2.3pt)	—
保守点検等	売上高	36,734	<b>40,000</b>	+ 3,265	+ 8.9%
	セグメント利益	7,979	<b>8,673</b>	+ 693	+ 8.7%
	(利益率)	(21.7%)	<b>(21.7%)</b>	(△ 0.0pt)	—
その他	売上高	5,241	<b>14,708</b>	+ 9,467	+ 180.6%
	セグメント利益	473	<b>1,663</b>	+ 1,189	+ 251.1%
	(利益率)	(9.0%)	<b>(11.3%)</b>	(+ 2.3pt)	—
消去または全社	売上高	△ 411	△ 411	—	—
	セグメント利益	△ 10,905	△ 11,370	△ 465	—
連結	売上高	139,657	<b>157,600</b>	+ 17,942	+ 12.8%
	営業利益	18,349	<b>19,000</b>	+ 650	+ 3.5%

# 営業利益予想増減分析



## 火災報知設備

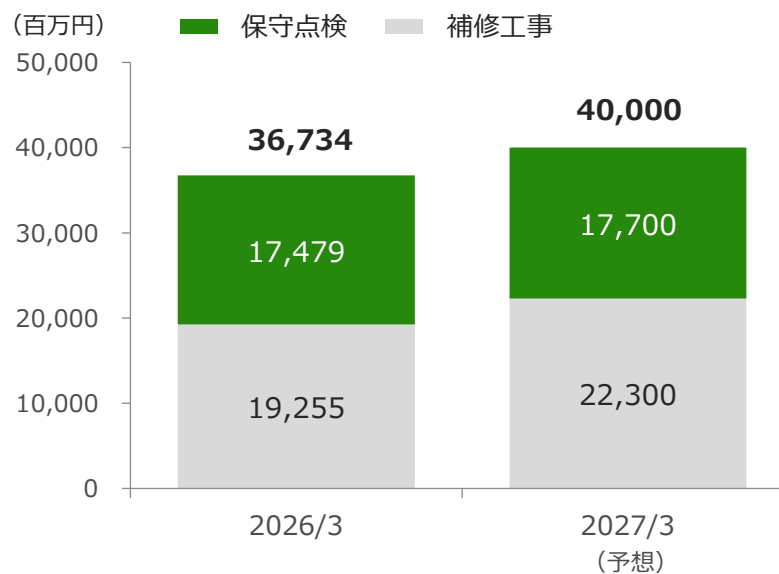
## 消火設備



- 堅調な市場環境が続いていることを背景に、商品販売を中心として売上高を伸ばし、過去最高の更新を目指す。

- 豊富な受注残高を背景に、セグメント全体で過去最高の売上高の更新を見込む。

## 保守点検等



- 堅調な需要から保守点検および補修工事ともに引き続き安定した売上成長を見込む。

期待の先をカタチに



*transformation*

## 4. 参考資料



## 防災システムを一貫体制で提供する総合防災企業

➤ 商号	能美防災株式会社
➤ 本店所在地	東京都千代田区九段南四丁目7番3号
➤ 設立	1944 [昭和19]年 5月 5日 ※創立は1916年 [大正5年] 12月
➤ 代表者	代表取締役社長 長谷川 雅弘
➤ 資本金	13,302百万円 ※2026年3月末
➤ 従業員数	3,251名 <連結> ※2026年3月末
➤ 事業内容	防災に関する受託実験、企画、提案 各種防災設備、システムの企画、開発、設計、施工、保守 上記機器の設計、製造、販売 駐車場車路管制システムの設計、製造、施工、販売、保守



# 沿革

## 創立100周年

## 株式上市

## 創立

- 2026 避難所開設・運営支援アプリ「N-HOPS」をリリース
- 2025 新型「PROTECVIEW」（超高感度煙監視システム）を販売開始
- 2024 新型のP型自動火災報知システムを販売開始  
PFAS（有機フッ素化合物）不使用の環境配慮型泡消火薬剤を開発
- 2022 東京証券取引所プライム市場に上場  
三鷹工場を移転新築
- 2021 VRコンテンツ「火災臨場体験VR～混乱のオフィス～」をリリース
- 2019 クラウド型防災支援ソフト「TASKis」を発売
- 2018 中・大規模建物向け防災システム「R-26C」を販売開始
- 2017 妻沼東事業所に、展示施設「能美テクノロジーメヌマ」を開設、  
メヌマ工場を拡大
- 2016 消火剤噴霧自動消火システム「SPash α」を販売開始
- 2014 「リング型表示灯付発信機」がグッドデザイン金賞を受賞
- 2013 画像処理煙検知システムを販売開始
- 2010 三郷市に研究開発センターを開設
- 2009 超高感度煙監視システム「PROTECVIEW」を販売開始
- 2006 セコム株式会社を引受先とする第三者割当増資を実施
- 2004 住宅用火災警報器「まもるくん10」を販売開始
- 2002 自動試験機能付P型自動火災報知システム「進P」を販売開始
- 1995 中国に合弁会社「北京能美西科姆消防設備有限公司」を設立
- 1991 東京証券取引所市場第一部に指定替え
- 1987 青函トンネルに防災設備、瀬戸大橋に消火設備を設置
- 1974 LNG基地防災システムを開発
- 1968 霞が関ビルディングに防災設備を設置 <超高層ビルとして国内初>
- 1962 名神高速道路の梶原・天王山トンネルに防災設備を設置  
<高速道路トンネルとして国内初>  
東京証券取引所市場第二部に上場
- 1936 皇居に火災報知設備を設置
- 1933 三十三間堂に火災報知設備を設置 <国宝として国内初>
- 1924 前年の関東大震災を契機に自動火災報知機による防災事業開始
- 1916 能美輝一、能美商会を創立



<PROTECVIEW>



<メヌマ工場>



<R-26C>



<能美テクノロジーメヌマ>



<リング型表示灯付発信機>



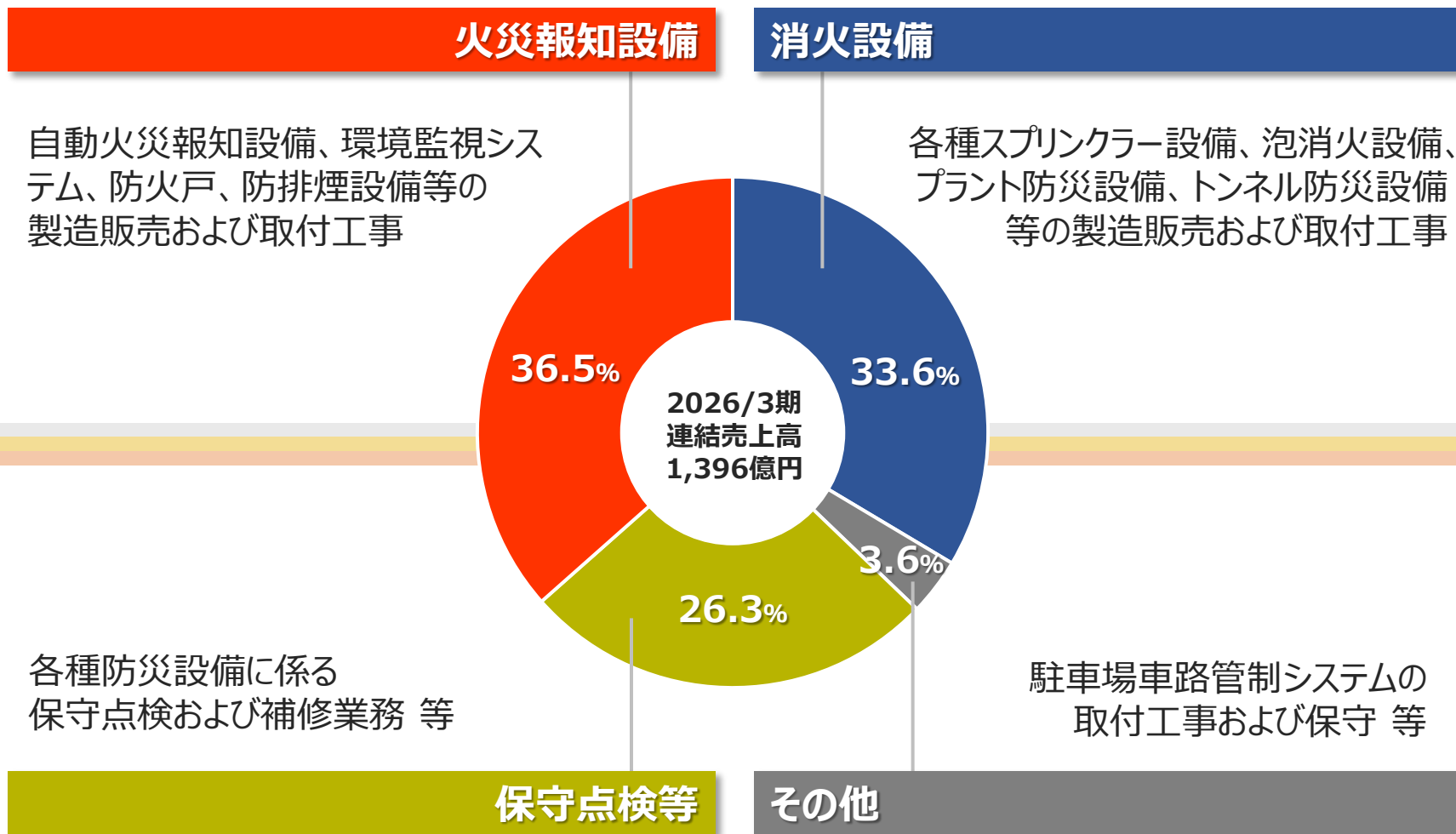
<研究開発センター(三郷)>



<能美輝一>



<宮中奥御殿（皇居）完工記念>



- 火災報知設備とは、万一火災が発生した場合に煙や熱をすばやく感知し、警報を発して建物内にいる人々に火災を知らせるための設備。
- 消防法により、自動火災報知設備の設置基準が定められている。
- 主な設置対象は、オフィスビル、商業施設、マンション、ホテル、物流倉庫など
- 製造した機器を代理店等へ販売する「商品販売」と、機器を販売するだけではなく、当社が取り付けまでを行う「工事付」がある。
- データセンターや半導体工場向けに、法律上の義務に加えて自主的に設置する安全対策設備として、火災を予兆レベルでとらえることのできる超高感度煙監視システム「PROTECVIEW」なども販売。



<PROTECVIEW>

- 消火設備とは、万一火災が発生した場合に、その火災を消火、抑制するための設備。
- 水を用いるスプリンクラー設備、泡消火設備、窒素などを用いるガス消火設備等がある。
- 消防法により、消火設備の設置基準が定められている。
- 消火設備セグメントの売上高は次のように分類している。

ビル等一般物件	： オフィスビル、商業施設、マンション等
プラント・トンネル等特殊物件	： プラント・工場、発電所、文化財、道路トンネル等
- 当社は製造した機器を販売するだけでなく、取り付け工事まで行っている。
- プラント・トンネル等特殊物件向けのソリューションは当社の強みのひとつ。



- 保守点検等セグメントの売上高は、「保守点検」と「補修工事」に区分している。
- 「保守点検」は、自動火災報知設備や消火設備などの消防用設備等に対して、消防法に基づき有資格者が年2回行う点検が主なもの。
- 「補修工事」は、点検契約物件で発生した不具合の修繕や、部品交換、防災設備全般のリニューアル工事など。
- リニューアルは、基本的に法律上の義務ではないため、推奨時期に当社より積極的に提案。
- メーカーとして付加価値の高いサービスを提供し、高い安全性を確保。



## 総合防災力

- 研究・開発 ⇒ 製造 ⇒ 営業・設計 ⇒ 施工 ⇒ メンテナンスまで  
一貫した責任体制でのサービスを全国に提供可能

### 一貫した責任体制



- 幅広い品揃えにより、様々な施設、  
防災ニーズに対応が可能



## 長い社歴の中で強みが磨かれた5つの要素

- 1 総合防災に関する開発、設計、施工等の『**技術力**』
- 2 豊富な実験により蓄積された火災に関する『**ノウハウ**』
- 3 細かな工程管理や対応等、ハイレベルな『**施工力**』
- 4 実績とともに築かれた関係各所からの『**信頼**』
- 5 日本全国に敷かれた充実した『**代理店網**』

※あらゆる火災発生状況を想定したシミュレーション



# 連結業績推移

(百万円)

	2023/3	2024/3	2025/3	2026/3	2027/3
	実績	実績	実績	実績	予想
売上高	105,537	118,506	133,696	139,657	<b>157,600</b>
売上総利益	34,859	39,473	46,453	52,318	<b>57,200</b>
(利益率)	(33.0%)	(33.3%)	(34.7%)	(37.5%)	<b>(36.3%)</b>
販管費	25,980	27,810	30,776	33,968	<b>38,200</b>
営業利益	8,879	11,662	15,677	18,349	<b>19,000</b>
(利益率)	(8.4%)	(9.8%)	(11.7%)	(13.1%)	<b>(12.1%)</b>
経常利益	9,420	12,242	16,217	19,361	<b>19,840</b>
親会社株主に帰属する 当期純利益	7,022	8,574	11,098	13,648	<b>13,310</b>
EPS (円)	116.42	142.10	187.86	231.88	<b>226.13</b>
ROE	6.2%	7.2%	8.8%	10.2%	<b>9.4%</b>
受注高	114,168	123,492	139,640	161,165	<b>155,600</b>
受注残高	59,035	64,022	69,966	91,474	<b>89,474</b>

# セグメント別売上高・利益推移

(百万円)

		2023/3	2024/3	2025/3	2026/3	2027/3
		実績	実績	実績	実績	予想
火災報知設備	売上高	39,760	43,259	48,147	51,143	<b>51,525</b>
	セグメント利益	6,509	7,674	8,528	9,958	<b>9,270</b>
	(利益率)	(16.4%)	(17.7%)	(17.7%)	(19.5%)	(18.0%)
消火設備	売上高	32,479	38,275	45,232	46,949	<b>51,776</b>
	セグメント利益	4,231	5,020	8,352	10,842	<b>10,763</b>
	(利益率)	(13.0%)	(13.1%)	(18.5%)	(23.1%)	(20.8%)
保守点検等	売上高	28,518	32,143	34,644	36,734	<b>40,000</b>
	セグメント利益	5,807	7,259	8,042	7,979	<b>8,673</b>
	(利益率)	(20.4%)	(22.6%)	(23.2%)	(21.7%)	(21.7%)
その他	売上高	5,168	5,309	6,169	5,241	<b>14,708</b>
	セグメント利益	283	251	386	473	<b>1,663</b>
	(利益率)	(5.5%)	(4.7%)	(6.3%)	(9.0%)	(11.3%)
消去または全社	売上高	△388	△481	△497	△411	△411
	セグメント利益	△7,952	△8,542	△9,633	△10,905	△11,370
連結	売上高	105,537	118,506	133,696	139,657	<b>157,600</b>
	営業利益	8,879	11,662	15,677	18,349	<b>19,000</b>

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、  
能美防災およびグループ各社が現時点で入手可能な情報に基づいており、  
この中には潜在的なリスクや不確定要素も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向等により、  
本資料における業績見通しと大きく異なる可能性があることをご承知おきください。